

2025 年 5 月 14 日

各 位

会社名	株式会社エクサウィザーズ	
代表者名	代表取締役社長 CEO	春田 真
	(コード番号：4259 東証グロース)	
問合せ先	コーポレート統括本部長 CFO	前川 智明

減損損失の計上に伴う通期連結業績予想と実績値および連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2025 年 3 月期第 4 四半期決算において、減損損失を計上致しました。それに伴い、2024 年 5 月 14 日に公表した 2025 年 3 月期（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想値と実績値、ならびに前期実績値（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）と当期実績値の間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

当社は、当社を取り巻く技術および市場環境の変化に応じて適宜事業計画を見直す中で、2025 年 3 月期第 4 四半期において、収益性が低下した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、結果として減損損失として総額 2,372 百万円を計上いたしました。主な内訳については下記の通りです。

① ソフトウェア資産の減損

当社の事業は、生成 AI の登場以降、急速な技術進化により、従前にソフトウェア資産化していた AI アルゴリズムを利活用するよりも、生成 AI を利活用した方が効率的となりました。こうした事業環境の変化を受け、ソフトウェア資産化時に想定した期待収益を下回るアセット^{*}を精査し、ソフトウェア資産の減損損失として 792 百万円を計上いたしました。

^{*}プラットフォーム事業における AI アルゴリズム、プロダクト構想フェーズの CareWiz や exaBase Studio、exaBase DX アセスメント & ラーニング(DIA)の過去リリース分にかかるソフトウェア資産が主に該当。

② のれんと顧客関連資産の減損

2023 年に子会社化した株式会社スタジアムの主要事業である営業代行事業が、顧客の業績により左右される影響が大きく、買収時の想定よりも事業成長が限定的だったことに伴い簿価の見直しを行い、1,263 百万円を計上しました。

なお、①と②を差し引いた残り 316 百万円の減損損失は、建物と備品に関わる減価償却費です。

2. 2025 年 3 月期通期連結業績予想と実績値の差異

① 通期連結業績予想との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通期連結業績予想 (A)	10,060	200	—	—
当期実績値 (B)	9,811	23	—	—
増減額 (B - A)	△249	△177	—	—
増減率 (%)	△2.5%	—		—

② 差異の理由

2025 年 3 月期の業績は、AI プロダクト事業が好調だったものの、AI プラットフォーム事業の第 3 四半期での進捗遅れにより、売上高は予想を下回りました。営業利益も、AI プラットフォーム事業の先行投資や一時的な外部リソース費用の発生により、予想を下回る結果となりました。第 4 四半期での改善努力にもかかわらず、期初の通期業績予想を達成するには至りませんでした。

3. 2025 年 3 月期連結業績の前期実績値との差異について

① 前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前期実績値 (A) (2024 年 3 月期)	8,384	△305	△330	△610
当期実績値 (B) (2025 年 3 月期)	9,811	23	2	△2,576
増減額 (B - A)	1,426	329	332	△1,965
増減率 (%)	17.0%	—	—	—

② 差異の理由

2025 年 3 月期は、AI プロダクト事業の目覚ましい成長により、過去最高の売上高 9,811 百万円を記録しました。費用増加があったものの、売上高の伸びにより営業利益は 23 百万円、経常利益は 2 百万円と、創業来初の黒字化を達成しました。一方で、子会社株式譲渡による特別利益 71 百万円を計上、投資有価証券評価損 140 百万円、減損損失 2,434 百万円を通期で計上しました。結果として、親会社株主に帰属する当期純損失は 2,576 百万円となり、前期実績値から増加しました。

その他の 2025 年 3 月の連結業績については、2025 年 5 月 14 日公表の「2025 年 3 月期決算短信」をご確認ください。

以上